

## ハノーバー・メッセ(ドイツ) 4月21日~26日

国際産業技術見本市「ハノーバー・メッセ」がドイツ ニーダーザクセン州ハノーバー市において4月19日から24日まで開催された。この見本市では、INTERKAMA(プロセスオートメーションの国際的リーディング見本市)、ファクトリーオートメーション(製造オートメーションのための国際的リーディング見本市)、エネルギー技術(エネルギー技術、再生エネルギー&エネルギーマネージメントの国際的リーディング見本市)、表面処理技術&POWER COATING EUROPE(表面処理技術の国際的リーディング見本市)、産業用部品(車両・機械・プラント建設のための産業用部品&工業用材料の世界見本市)、デジタルファクトリー(統合プロセスとITソリューションのための専門見本市)、マイクロテクノロジー(マイクロシステムテクノロジーとナノテクノロジーの応用のための国際的リーディング見本市)、研究開発&テクノロジー(研究開発のためのイノベーション市場)の8件の見本市が同時開催されました。

このうちマイクロマシンセンターに関連する、マイクロテクノロジーと 研究開発&テクノロジーの2件の見本市を中心に調査しました。

調査の結果、概要として以下の成果・感想を得ました。

- 1) 全出展社は5040社、ドイツ外の出展社で最多はイタリア 218社、これに次いで中国(中華人民共和国)が190社、スイス 160社、日本(現地法人含む)は70社。中国の欧州市場狙いの積極策が伺われます。
- 2) 全訪問者は約18万人、うち海外からは約5万人。更にそのうちの40%(2万人)は欧州外からの参加者となっている。国際見本市としての評価が定着しているように感じました。
- 3) 欧州における研究開発の巨人はフラウンホーファー研究所、産業の巨人はジーメンスで、その存在感は他を圧倒している。
- 4) 4月1日のEU経済圏拡大を基に東欧諸国の展示参画が目立った(特に研究開発&テクノロジーの見本市で)。
- 5) マイクロテクノロジー見本市は210社が展示、なかでもネットワークグループIVAM(ドイツ)が40社の関連企業を参加させており、またオープンフォーラムでは欧州8ヶ国のネットワーク連合EMINENT構想をアピールしたことは日本のMEMS産業界のネットワーク展開に参考になった。ちなみにこのIVAMと米国MEMS INDUSTRY GROUPとのコネクションを執ることができたので、今後の当センターの事業展開で何らかの連携が執れる下地ができた。
- 6) 研究開発&テクノロジー見本市は420社がライブ

サイエンス、オプト技術、バイオ技術等を展示、また技術トランスファーの仕掛けとしてオープンフォーラムで大学、研究機関のプレゼンを用意し、積極的に顧客へのアプローチをしていた。材料加工の分野で東欧諸国の展示が目立ったのもこの見本市の特徴である。この見本市では平日にも拘らず親子や女性の姿が多く見かけられ、展示側も興味を持たせる展示・説明の工夫をしていて、科学・技術に対する興味・期待や普及活動が身近なものとなっているように感じた。

7) MEMSやナノテクノロジー関連の展示者の中で日本の大学への留学や日本企業へのインターンシップ等経験者と会え、日本との人的交流がかなり進んでいる印象を持った。

8) 全体的に、見本市の印象として、展示側と見学者が“先ずはコミュニケーション/情報交換から”という姿勢が強く感じられた。



Research & Technology 見本市：  
Nanotechnology 展示ブースで、家族ずれの来客への説明  
科学・技術が身近な存在